PHR 協会 IHMS 委員会議事録(案)

日時:2019 年 4 月 **10** 日(火)**15** 時～**17** 時　場所:リロの会議室飯田橋
出席者:web 会議　なし　村山、大林、細羽、織田
　　リアル会議:　鈴木、藤井田、喜多、森口記(順不同・敬称略)

主な議事:　6 月 6 日の医療情報学会チュートリアルへの対応

1.　議事(以下、鈴木司会)
　(1)　3 月 20 日の議事録案を確認(全員)。　　変更なし
　　NTT 東日本方式で会議を実施。有線 LAN 使用。
　　回線的には問題なし。当初、Mac 側の画面が小さかったがそのうちに改善
　　今後は、新規の参加者や権限のやり取りの課題を皆が習熟するとさらに良い。

２.　議事内容
　(1)　PHR 協会講演会の結果報告(事務局報告)
　　110 名の参加者を得た。
　(2)　PHR 協会、IHMS 委員会の検討課題に関する検討**(以下は、原文を赤で修正)**
　　した。赤字で訂正。
　　① PHR 協会は、テキストデータのみでなく、画像や波形情報も蓄積する。
　　例として、ポータル心電計の場合の必要性を検討した。
　　・現行の運用では2~3週間蓄積して保存している。
　　・EHR としては、現状、かなり長期な保存を行うが、PHR としては、これほど長期な保存は意味がないのでは？
　　② フクダ電子の MFER には(フクダ電子仕様の)診断用データも装備・保管しているため、保存用に蓄積した MFER データによる診断の復元も可能である。
　　③ MFER／心電図のデジタルデータ蓄積による事例が少なく、有効な活用方法が考えられて　いない。
　　④ 結論:デジタルデータ波形をメーカに求めて蓄積したいとするニーズは**あるかもしれないが、現状はフクダ電子のユーザからの依頼がない状況である。**
　　脳波も MFER 方式で検討されている。
　　注:フクダ電子佐藤健一が欠席のため、後日、赤太字部分を確認した。
　　⑤ 現状の結論:デジタル波形データは、現状の診断には有効だが、「正常から異常に落ち込むタイミングの予測などに使うには、多様なデータの蓄積・実証が必要である。
　(3)厚生労働省のPHR政策の具体的な施策の確認
　AMED の報告会が 3 月 15 日・16 日にあった。
　厚生労働・経済産業・総務　の 3 省の足並みがそろっていないと感じた。
　　EPAS(クリニカルパス)　(鈴木より)➡　「EPAS」ではなく「e-Path」
　　https://e-path.jp/

（3）　6 月 6 日の JAMI 学会のチュートリアルへの提案の採用が決定。

森口が提案の主旨を説明

〇テーマ「健康づくりに貢献する PHR の流通・活用戦略の課題」

・「PHR 協会の定義による PHR の活用」について議論したい。

・国策としての PHR や標準化に対抗したりフォローするものではない。

〇委員会出席者からのコメント

・国の PHR は、「社会保障と税の一体改革」から出てきた。

・データヘルス改革計画がその流れである。

・医療改革から地域医療連携へと進んできている。

・産業保健の観点から、小規模事業所の外国人労働者に PHR を提供することが考えられる。

３．　次回　IHMS 委員会 5 月 15 日（水）

6 月 6 日のチュートリアルにおいて、現在、安藤・鈴木淳夫（座長）・森口・織田及び、中島直樹先生＠九大病院　の名前を挙げているが、全体のストーリーをどのように行うか、他の演者の参加について、次回の IHMS 委員会で議論する。

―以上―